



恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。  
たじろぐな、わたしはあなたの神。  
勢いを与えてあなたを助け  
わたしの救いの右の手であなたを支える。 (イザヤ書 41章10節)

正面玄関を入ると左壁に「神なき教育は知恵ある悪魔を造り、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」と書かれた額が飾られています。これは清教学園設立趣意書である本校の建学の精神です。最初は「神なき教育は知恵ある悪魔を造る」と記されていたものに「神ある教育は愛ある知恵に人を導く」と付け加えられたとされています。

中山昇『神ある教育 ―はじめに』の掲載文では、次のように語られています。

神様を教えない教育はどんなに知識の豊富な人物をつくる事が出来たとしても、結局は自分のためにしかそれを使わない人間に仕上げてしまうという主張であります。なぜなら、普通神なき教育とは人と社会のかわりだけでものを考え、事を運ぶ教育のことでありますから、そこでは人との対応をどのようにすれば円滑に又利巧にゆくかが関心事となります。それがどうして知恵ある悪魔をつくるという主張になるかというと、そこではどうしても人間中心になるからです。人間中心ということになれば、どうしても自分中心になります。自分中心になれば、どうしても他の人は自分のために利用するものになってしまいます。このような現実を直視したときこの提言が千鈞の重みを持って私達に迫ってくるのです。

清教学園では、「神ある教育」と提唱するのですが、これは自分と社会とで組み合わせる横の関係に、もう一つ神様と自分、神様と隣人、神様と社会という縦の関係を大切にします。そのことによって、人間中心、自分中心ではなく、一人ひとりが神様の差しのべてくださる愛に応え、神様のおさだめになった真理を学び、神様の欲したもう平和への努力を喜ぶものにしていただくということでもあります。

横の繋がりだけでなく縦の繋がりをも加えていくことで、豊かな人物を育て上げる教育を望まれている思いが、この言葉を通して垣間見ることができます。学園生活の1日は各教室で讃美歌を歌い、主の祈りを捧げ、聖書を朗読する礼拝で始まります。そして週に1度(中学は週に2度)学年ごとにチャペルに集まり、合同礼拝が持たれます。入学するまではキリスト教のことを全く知らず、聖書や讃美歌を手にするのも初めてという人にとっては、とても不思議なひとときと感ぜられるかもしれません。

神様はいつも私達と共におられるといわれます。そればかりでなく助け、支えるといわれます。目標としている道を見失った時、気持ちが揺らいだ時、必ず支えてくださる力があれば、安心と自信を見いだすことができます。「神ある教育」を掲げる清教学園での学びには、必ず働いてくださる力があると信じています。

